



シリーズ タンチョウ Vol. 376

鶴居村教育委員会社会教育課主幹
(タンチョウ自然分野担当)

音 成 邦 仁

☎64-2050 / FAX64-2900

鶴居 タンチョウ

検索

進化するタンチョウの食害防止対策

村では、毎年デントコーンの播種時期に、タンチョウによる種や芽の食害防止対策を実施しています。今年度も若いタンチョウが定着する2つの地区で、住民有志15名が“畑からの追い払い”に参加してくださいました。

対策では、主に人が近づくことで畑に侵入したタンチョウを追い払います。笛や防犯ブザーを鳴らしたり、傘や大きいシートをバサバサさせたりしながら行っています。また、ドローンによる追い払いも実施しており、音を出す器具を取り付けたり、いかにもタンチョウが嫌がりそうな人形をぶら下げたりしています。とにかくタンチョウが嫌がりそうなことはなんでも試しています。昨年度と同様に、子どもたちの追い払い体験と忌避剤の効果検証も実施しました。追い払いに参加した子どもたちは、自然体験活動グループ“サルルンガード”のメンバーで、5, 6人ずつ計3回実施しました。忌避剤は「食べるとまずく感じる」薬で、畑10ヶ所約73町歩で忌避剤をまぶした種をまいていただきました。誤解のないように書き加えますと、決してタンチョウが憎くてやっているわけではありません。タンチョウと人とのよりよい関係を築くために、人側の意思（畑の種は食べないでほしい、広大な湿原でひっそりと暮らしてほしい）を示すことが狙いです。



タンチョウに引き抜かれた
デントコーンの芽

広大な畑からタンチョウを追い払うのは楽ではありませんが、毎年多くのみなさんが参加してくださいます。活動の趣旨に賛同いただくとともに、農家のみなさんの理解や配慮が感じられ、みんなが一丸となって食害防止に努めるといった雰囲気が感じられることも大きいのではないかと思います。また、生まれて間もないヒナとの出会いに癒されるというおまけつきです。

私自身がタンチョウの追い払いに関わり始めて四半世紀。工夫を凝らした追い払いに取り組み、参加人数も増え、農家のみなさんは情報交換などを通じて深くかわってくださるようになりました。進化するタンチョウの食害防止対策、その結果については次号でお知らせします。(つづく)



タンチョウが嫌がりそうな人形を
ぶら下げたドローンで追い払い



子どもたちによる追い払い